

授業科目名	書写・書道 (2100261)		
時間割名	書写・書道 (33111)		
時間割担当	小竹光夫		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	水・3		

授業の目標・概要

本講義では、「書写・書道入門」や「書写・書道」で理解し、習得した内容を中心としながら生活の中で生きて働く書写力の育成に重点を置き、学習を進める。中学校国語科における書写指導として、各書体の表現効果を生かした毛筆における表現のあり方や活用法について理解し、活用できるようになる。また、生徒の書写力向上のための効果的な単元指導計画の作成などにも言及し、理解を深める。

学習の到達目標

ただ単に理解するだけではなく、理解した事柄を具体的に実現していくことが「書写・書道」での目標となる。教壇に立つ授業者としては、単に自己の実技力向上を求めるのではなく、文字や言語環境を見通しながら、好ましい書写に導くための道筋を知らなければならない。その中から、効率的で日常に生きて働く書写の力の習得に努めることになる。特に、初等教員が関わる国語科書写での学習指導の観点や方法、教材分析についての演習を加えた実証的な学習展開を行う。

授業方法・形式

1. それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。
2. 必要に応じて、取り上げるテーマに関するディスカッションを行う。

授業計画

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 硬筆・毛筆書写用具の種類と扱いを知ろう
用具用材への基本的な理解と、具体的な扱い方について学ぶ。 |
| 第2回 | 生徒の日常書写の実態を観察する
児童・生徒は、どのような文字・書写環境の中にあるかを知る。 |
| 第3回 | 生徒の日常書写の実態を分析する
効果的な書き方について分析し、解決の方法を探る。 |
| 第4回 | 書写する上での問題点の要因分析する
用具用材との関連の中で、書写上の問題点の要因分析を行う。 |
| 第5回 | 授業実践者自身の書写力の確認する
生徒に関する問題点や障害要因に照らして、自らの書写力を見つめなおす。 |
| 第6回 | 問題点の分析と解決への試み
用具用材からの解決策を探る。 |
| 第7回 | 問題点の分析と解決への試み
執筆や姿勢から解決策を探る |
| 第8回 | 硬筆・毛筆基本教材の実習
漢字の楷書と、それに調和する仮名の基本的な書き方を知る。 |
| 第9回 | 硬筆・毛筆基本教材の実習
漢字の行書と、それに調和する仮名の基本的な書き方を知る。 |
| 第10回 | 教材作成の方法を学ぶ
学びのワークシートの分析と作成を行う。 |
| 第11回 | 教材作成の方法を学ぶ
提示、掲示する教材の分析と作成を行う。 |
| 第12回 | 提示物の処理と評価方法を学ぶ
基本的な評価法を知り、それに従った提出物の処理方法を学ぶ。 |
| 第13回 | 硬・毛筆関連学習の単元指導計画の意義を学ぶ
硬・毛筆関連学習の必要性と意義を知る。 |
| 第14回 | 硬・毛筆関連学習の単元指導計画の作成演習を行う。
硬・毛筆関連学習の具体についての演習を行い、具体化への道筋を知る。 |
| 第15回 | 授業の総括として、これまで身につけたことについてまとめる。 |

成績評価の基準

毎回の授業中に行う小レポートと毎回の課題レポートを中心に、授業に対する理解度を観察し評価していく。(50%) 学習記録ノート(学生成成)の緻密さなどを評価する。(30%) 授業内での口頭発表を観察し、理解度やまとめる力について評価する。(20%)

準備学習・復習及び授

- ・文部科学省編『中学校学習指導要領 国語編』を準備し、必要に応じて学習内容と対照しながら学びを深めていく。
- ・参考図書等については教員側で紹介するので、可能な限り入手して、積極的な学びを展開することを期待したい。

履修上のアドバイス及

実技を伴う学習の場合、とすれば「手本通りに書く」ことが重視され勝ちである。しかし、「手本」は単なる1字例であり、基本的な原理・原則を示しているに過ぎない。学習にあたっては、単なる模倣に終始することなく、創意工夫を凝らしながら日常に活用できる文字言語の力を考えておきたい。

教材・教科書

特に購入を求めるものはない。授業資料については、担当者が毎時作成して学習の進行を図る。

参考書

各校種に応じた学習指導要領、ならびに解説を準備し、読解しておくことが求められる。学習事項・内容を拡大していく上での参考書類については、各授業の中で紹介する。